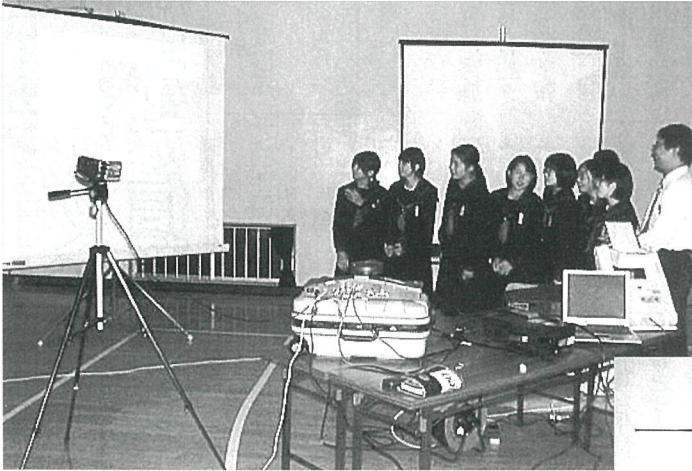


福島県PTA連合会会報
第57号_H14.03.05

P T A ふくしま

第57号

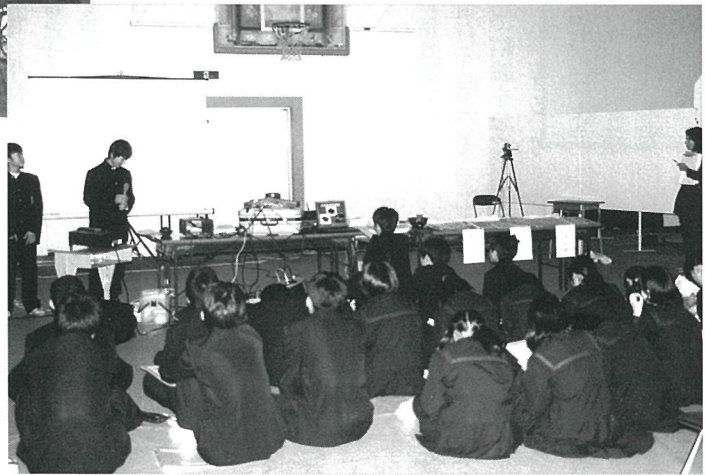
福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所



地域や環境の違いをテレビ電話を用いての意見交換

総合的な学習の時間 — 中学校での活動の様子 —

《写真提供 いわき市立平第一中学校》



アンケート調査の結果を、パソコンを用いて提示し、視覚にうったえた効果的な発表

今こそ、がんばろう！親業！



福島県小学校長会長

加藤 征 男

騒いだり酒を飲むための成人式。嘘が大臣の更迭に発展した政治の世界。金儲けに拘った拳げ句に倒産したブランド企業。モラルを失った公務員の不祥事など、最近、困惑する出来事が多いようだ。大口を叩く資格もつもりもないが、何れも何かが変だ。ただ便利で、豊富で、面白くて、儲ければ、そんな風潮が私たちをすつかり包んでしまったかな、この先どこまでどうなるのかなといささかを通り越して心配になる。他の人のことはお構い無し、自分さえ良ければ何でも有りの様子を呈していて、まるで私たちの周囲は混乱、混沌、混迷、混然といった「混」だらけになってしまったように思われる。このことは、価値感がどんどん多様化し、拡散し、大人が「このことについては、こうだ」と同じ考えで言えない世の中になったことと大いに因果関係があり、生き易くなった反面、皆が住み難くなったようだ。子どもの頃、意味はよく分からなかったが、「お天道様がよくく

見ていらつしやるんだからね」とか「世間様に顔向け出来ないことだけはするな」と出掛けに親から必ず言われたものだ。このような言葉は今やすっかり死語化してしまった。我が家でも同じ。親の時代まで伝え、守られてきた事を自分が親として子に引き継げなかつたことになる。思えば、すごく惜しいことだし、残念なことだ。時代が違う、生活の仕方が違う、忙しさが違う、果てまた、子どもが違う：と言うわけにはいくまい。私たち大人が、親が従来の大人や親に比べて、ここ三、四十年の間に、特異で大きな変化をいたしましたようだ。優しく甘やかすはいっぱいできても、厳しさや自立を促す親業が全く不足している。自戒する必要があるようだ。折しも、いよいよ学校週五日制がスタートする。大人として、親として改めて問われることになる。容易でない時に巡り会ったと思うのか、良い時に巡り会ったと考えるのか、さあ、どうしますか。今こそ、がんばろう！親業！

県P連活動スローガン **語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を**

県P連活動スローガン

語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を

県P連の活動スローガンを設定して四年目になります。今年度も多くの実践が報告されています。

昨年度に引き続き、特色ある活動をしているPTA等について紹介いたしますので、活動の参考にさせていただければ幸いです。

「語り合いタイム」の実施について

〔福島大学教育学部附属中学校父母と教師の会〕

十月五日に実施した「語り合いタイム」について報告します。

この「語り合いタイム」は、学校側から提案があり、本年度初めて実施された事業です。

その実施目的は、「生徒の学校生活・家庭生活や将来を見据えた進路指導等に関して、学級担任だけでなく生徒に関わっているより多くの者が、より多角的に語り合える（話し合える）場を設定し、幅広い課題（悩み）を解決する一助とする。また、

この語り合いを通して学校と保護者の相互理解を深め、今後も自由に語り合いができるような雰囲気醸成する」というものです。

実施日には、放課後（生徒は授業終了後、完全下校とする。）の時間を利用し、語り合いの時間は原則として、一人四十五分以内とし、学校側からは、校長先生、副校長先生をはじめとする全ての先生が参加され、保護者は、事前に参加希望調査を行い、約二十名が参加しました。

また、福島大学教育学部の臨床心理士（カウンセラー）の先生にも加わっていただき、複雑な問題についてはアドバイスを受けるなど、その日の語り合いだけで結論を急ぐ事なく、継続して話し合えることのできる機会にしました。実際に、現在数名の方々が、引き続きカウンセリングを受けています。当日は、学校運営全体に関して

の問題、提案等は、校長先生・副校長先生に、また部活動の問題、要望等については、その担当の先生にと、生徒の生活全般に関わるものが話し合われ、先生と保護者が同じ目線で、一緒に考えていく語り合いの場になり、大変意義あるものとなりました。

参加した保護者からは、この「語り合いタイム」がひとつのきっかけとなり、「先生に対していろいろと相談しやすくなった。」「子供とともに、ひとつの問題に対してじっくりと話し合えるようになった。」等の意見が寄せられ、先生と保護者、先生と生徒、そして親子や家族の信頼関係をより確かなものにする成果があったと思います。

今後は、日程が調整できなかった保護者について、実施日以外でも設定できるように配慮し、来年度以降も継続してこの「語り合いタイム」の実施を検討中であり、一対一で本音で語り合えたこの結果を「父母と教師の会」活動の中にかし、県P連活動スローガンである「語り合い、分かり合い、確かな信頼関係を」の構築を目指していきたいと考えます。

（会長 坪井 大雄）

体験・経験が育む人権教育

〔三春町立御木沢小学校PTA〕

御木沢小学校は、梅・桃・桜が一時に開花して咲き誇る、三つの春を地名の由来とする小さな城下町三春の北部に位置しています。本校は、会員九十五名、児童数百二十五名で各学年一クラスという小規模校です。六年間同じ顔ぶれで育つので、仲の良さ協調性には優れ、伸び伸びと生活しているように思われますが、反面刺激に乏しく競争心にやや欠けるところが欠点かと思えます。PTA活動については、地区のまとまりはすばらしく、地区をあげての大運動会や十二年度から行っている「御木沢地区探検」など、小規模校ならではの

こそ実施可能な地域ぐるみの特色ある事業を展開しています。その活動の一端である「PTA会員研修会」についてご紹介します。この研修会は、講師に「子どもの人権専門委員」をお招きし親子で参加します。今年度のテーマは「高齢者問題」でした。まず始めに人権啓発ビデオを親子一緒に鑑賞した後、保護者の方が自分の子供のいる班に参加し、小グループで親子討論会を行い、班長さんに話し合いに出たことを発表しても

らいました。最後に、講師の方にそれぞれの発表内容に触れながら講話をしていただきました。子供達は自分の家庭と照らし合わせながら、家庭内や地域で高齢者に何をしてやれるかを考え、保護者の方は、普段親子で語り合うことがあまり無い「高齢者問題」について、子供達の考えを聴き討論することができた素晴らしい機会でありました。

講師による講話の内容は、「思いやりの心得」として①あいさつしましょう②言葉遣いのことを考える③家庭で一つ以上仕事をす、を柱にお話しいただきました。「子供は親の言うようにはならないが、やるようにはなる」と言われ、親子で地域活動に参加し経験を増やしてやるのが大切であると説かれました。子供ばかりでなく大人自身も、人権感覚を磨く必要があり、自分たちの日常生活を振り返って、何気ない言動で、他人を傷つけていることはないか。親として、人として自分の在り方を、問い直してみる一日でありました。子供達に、多様な体験と学習の中から、思いやりの心を持ち、自分自身の生き方をより深く考えながら成長できるように、PTA活動を進めていく必要性を再確認することができました。

（会長 宮本 久功）

親子学級会とファミリー学級

「会津若松市立謹教小学校校父母と教師の会」

本校は、会津若松市の中心に位置し、全校児童五百八十二名で十九クラスの中規模校と言えます。また、平成十四年度に創立百三周年を迎える、すばらしい歴史と伝統を携えた学校です。

そのため、地域からの期待も大きく、それに応えるべくPTAとしましても様々な活動を展開しております。

「語り合い、分り合い、確かな信頼関係を」のスローガンのもと、本校では次の二つの活動を展開しております。

まず一つ目は「親子学級会」です。これは、それぞれの学年ごとに子ども、教師、保護者が一堂に会し、学校生活や家庭生活におけるめあてや約束事、計画を決めたり、反省したりする会です。それまで授業の学級活動で行っていたものに、保護者も参加するようにしたものと云えます。

この親子学級会は一学期初め、一学期末、三学期末と年三回実施しています。

第一回目の一学期初めは、学年目標や学年経営についてオリエンテーションを行った後にクラスごとに分かれて目標や約束事を決め

ます。

第二回目の一学期末は、後述する「ファミリー学級」と抱き合わせで行い、一学期の生活を振り返り反省を行うと共に、二学期に向けての目標や約束事を決めます。

第三回目の三学期末は、学校や家庭生活について一年間を振り返り反省すると共に、次年度や次学年に向けて目標や希望を持たせるようにしています。

今年で二年目となる試みですが従来の授業参観後に懇談会を実施するといったシステムに比べ、時間が短縮できます。つまり、子ども達の様子を保護者が把握しつつ学年学級経営や約束事などについても具体的に理解できるといったメリットがあります。

次は、二つ目の「ファミリー学級」です。これは毎年七月の日曜日に実施し、親子の共同作業による創作活動を通して親子が触れ合う場を設けようという試みです。制作する物については、担任の先生と各学年の委員長が相談して決めるようにしております。短い時間ではありますが、和やかな雰囲気の中で、親子が触れ合うことができるようにしております。

親子学級会では、保護者が授業に積極的に参加するという点でまだまだ十分でないところがありますし、ファミリー学級では、複数学年に子どもがおられる家庭の場合どうしても十分な触れ合いが持たないといったデメリットがございます。これらの課題を解決し当初の目的が達成できるよう取り組んでいるところです。

(会長 伊藤 博道)

「語り合い……」活動あれこれ

[いわき市立好間第一小学校 P T A]

今回の原稿依頼を受けて、改めて一年間の活動を振り返ってみると、まさに県のスローガン「語り合い……」が、時代の要請に基づき非常に重要なことでありながらも、今日的に失われつつある状況にあることを強く感じずにいられませんでした。

親子や家族の語り合い……という観点からいくつもの活動を紹介します。

本会では毎年、教育環境整備を目的に「バザー・模倣店」を開催して

います。年毎にいろいろな趣向や工夫をこらし、苦労の中にも楽しみを見つけて活動しています。役員全員で役割を分担し、高学年生にはポスター作りなどで協力してもらっています。日頃別々に活動を行っている役員が一堂に会し、まさに「同じ釜の飯を食う」そんな状態で大いなる交流が図られています。また、子どもたちに対して、親が学校のために、一生懸命活動している姿を直接見せることができるのも、非常によい効果を生んでいます。

一方大阪の事件を教訓に、危機管理対策や衛生面への対応など、例年以上に気をつけました。役員へのネームプレート配布など、バザーを通して保護者への啓発活動にも努めました。

次に、今年度初めて行った二年生の「親子収穫祭」について紹介します。幸いにも、私や妻も二年生の保護者として今回の行事に参加することができました。特にすばらしいと感じたのは、保護者に対して「楽しくおいしさつまいも料理」の募集があったことです。通常の授業参観の様に、ただ収穫祭にお呼ばれするのではなく子どもたちと一緒に活動(調理)する時間を準備していただきました。子どもたちが丹精込めて作ったさつまいもを保護者が考えたアイデア料理でおいしくいただく……



(会長 鈴木 純平)

すばらしい一時を過ごすことができました。また、わが家では、収穫祭開催の連絡を頂いて以来、娘が収穫祭の話をするたびに家庭での団らんが生まれました。こうした新しい企画を考え運営してくださった先生方や学年委員の皆さんに深く感謝しているところです。

来年度から学校は週五日制になります。家庭・学校・地域三者一体となった教育環境の整備や、学校と社会の融合など、益々「語り合い……」の活動は社会的なニーズとしてその必要性が高まるものと考えられます。今後とも、私自身がおかれている様々な立場を通して、折りに触れ機会をとらえ考え続けていきたいと思っております。

各・地・区・だ・よ・り

新しいPTA活動を目指して

石川地区



石川地区連合 PTAは、郡内五町村の小学校二十四校、中学校八校の、単P数三十二校、会員総数四千六十五名で組織しています。

石川郡連合PTA 会長 近藤 勇人

例年五月に総会を開き、前年度の事業・会計決算、新年度の事業計画・予算を審議し、新役員を選出して事業を進められます。今年度は、平成十四年より始まる新指導要領の完全実施「学校週五日制」

内田宗寿管長より、吉田富三という病研究先駆者の世界的な医学者の生涯について、講演をいただきました。また、ウイリアム・アーサー・ワードの言葉、「凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明をする。優れた教師は自らやってみせる。そして偉大な教師は心に火をつける。」を紹介され、博士は「心に火をつける人」であったこと。子供たちの教育に関わる我々への激励を賜りました。

大沼地区

子供の健全育成を願って



大沼郡連合父母と教師の会 会長 板橋 健一

母と教師の会は、大沼郡の東部にある会津高田町・会津本郷町・新鶴村の三町村十四校で組織されており、例年五月に開催される総会よりスタートします。

ユースポーツの集い・お父さんお母さんパワーアップ大会・普通救命講習会等、会員の要望や時代の流れ等を考慮したユニークな事業を展開しています。そこで、毎年三回、各単P代表役員による懇親会を開催し、郡連P会員相互の親睦を図るとともに、情報交換を行い、各単P及び郡連PのPTA活動の活性化の推進に努めています。

第25回 子どもの災害事故防止コンクール

第二十五回子ども災害事故防止習字・ポスター展は、昨年十二月から今年一月三十一日まで作品を募集しました。

今年、習字の部に小学校百五十一校二千九百七点、中学校二十四校二百九点。ポスターの部小学校七十三校三百六十三点、中学校九校三十一名の応募でした。

- 審査の先生方(敬称略)
習字
野澤 光男(元北沢又小校長)
佐藤 一男(元清明小教諭)
鈴木 幸子(元蓬萊小教諭)
ポスター
高荒 敏明(元余目小校長)
【講評】今後のために
習字 基本・点画を正しく、接筆を正確に、止め・はね・はらいの意味を考えて、名前にも心を込めて作品の一部、質のいい墨を、等々に配慮して欲しい。
ポスター テーマについての考えを作品に表現する工夫を、子どもらしさを失わないように、主旨と内容の合致した作品づくりなどに努力を。
入賞者名

習字

- 小学校
最優秀賞 《二年》伊藤 茜(磐崎)
《二年》村上晴香(小名浜一)
《三年》荻野亜紀(長倉)
《四年》平子夏花(小名浜西)
《五年》櫻村千恵(永盛)
《六年》古田美佳(薫)
優秀賞 《一年》都倉佑太(慶徳)
奥田香里(安積一)
大戸千熙(里白石)
《二年》古川紗也子(二本松南)
白石和佳(五箇)
菅野莉那(上川崎)
《三年》鬼頭真紀(泉北)
柚木勇人(吉子川)
星敦子(東山・若松)
橋本和与(須賀川一)
大輪彩加(五箇)
《四年》圓谷咲枝(永盛)
森 彩佳(みさか)
水口詩央里(四倉)
山田安希(本郷二)
添田綾音(石川)
《五年》吉田夏希(門田)
古川鞠子(二本松南)
小松夏子(内町)
原 碧(謹教)
小野寺恵(岳下)
《六年》首藤花央(永盛)
鈴木冬実(五箇)
大柴由香利(内町)
湯田麻美(田島)
田川千愛(城南)

佳作入賞者名は「安全互助会報告書」に掲載します。
みち
村上晴香
村 上 晴 香
優良賞 《一年》小沼亜紀奈(城西)
加藤稚菜(河東三)
佐藤

双葉地区

PTA活動の活性化

双葉郡PTA連合会

会長 松本利勝



双葉郡小中学校PTA連合会は、海沿から阿武隈山系山間部まで広がり、小

学校十九校、中学校十一校の三十単Pの組織です。

本会は南双三町、中双二町一村、北双一村の三双合わせ八町村で事務局を会長所属校に置いて、構成されています。

例年五月に総会を開き、新年度のスタートとなります。大きな事業としては、研究大会です。

研究大会は三双をローテーション

えてくれました。とても有意義な大会となりました。

また八月三十一日から九月一日の日P全国研究大会秋田大会に各町村代表十三名の出席を得て、長い道中のバスの中で皆さんと意見交換をしなが

「夢あふれる二十一世紀のために、家庭、地域の教育力を再生しよう！」をスローガンに、約四百名の参加を得て、午前中に準備を行ない、午後から大会が行われました。記念講演は、本村出身文学博士で全日本新芸書道会長の遠藤岑琴(本名清勇)先生をまねき、「故郷を離れて学ぶ半世紀」と題して、講演を行いました。

常にチャレンジする事の大切さ、努力する事の大切さを教えられ、これからのPTA活動に自信と夢をあた

決定しました。今後とも、こうした方針のもと連携をはかって、PTA活動をいっそう充実させていきたいと思います。

両沼地区

「連Pの魅力」

両沼地区連合PTA

会長 内海淳一



両沼地区連Pは十七の小学校と九つの中学校があります。その中の大規模校の坂下一中、坂下二中、坂下小学校が交代で、事務局校になります。

大きな行事として両沼地区PTA研修会がありますが、会場校が、前記の三校を除いた地区の持ち回りとなっています。ですから、毎年、事務局校と会場校との連携が非常にむずかしいところがありま

す。でも、毎年場所が変わるので、それぞれの地域の特色が出せ、参加者にとっては、違う雰囲気味わえるので楽しみなところもあります。

今年度は湯川村で開催されました。夏場の開催なので冷房がある所ということで農業共済組合の施設をお借りしたのですが、分科会の会場設定や、駐車場の問題で会場校では大部苦労されたようです。

研学会の最後には講演会が開催

- ◆中学校
- ◆最優秀賞(一年) 井原良江(大東)
- ◆二年 辺見敦子(東北)
- ◆三年 中野美咲(石神)

防災

井原良江

▲井原良江(大東中1年)

- ◆優秀賞(一年) 辺見奈月(西郷)
- ◆二年 櫻村理恵(安積)
- ◆三年 溝井里枝子(大東)
- ◆優良賞(一年) 河野さやか(須賀川)

賀川(二) 星光紗(西郷二)

ポスター

小学校

- ◆最優秀賞(一年) 森川友博(鶴城)
- ◆二年 高橋宏美(笹谷)
- ◆三年 渡辺悟史(鏡石)
- ◆四年 木須法子(瀬上)
- ◆五年 森茉莉絵(河東)
- ◆六年 松本香織(社川)

- ◆優秀賞(一年) 五十嵐巨(喜多方)
- ◆二年 熊田晃子(好間)
- ◆三年 遠藤佑香(平)
- ◆四年 石井歩美(桑野)
- ◆五年 村上良太(石川)
- ◆六年 大河原裕香(長沼)

- ◆優良賞(一年) 渡部十和(富岡)
- ◆二年 渡辺静(二本松)
- ◆三年 五十嵐梨沙(喜多方)
- ◆四年 増田美亜奈(岳下)
- ◆五年 栗名美稀(長沼)
- ◆六年 小澤洋太(山都)



▲木須法子(瀬上小4年)

中学校

- ◆最優秀賞
- ◆面川 元紀(鏡石 3年)
- ◆優秀賞
- ◆安田 大地(大東 2年)
- ◆優良賞
- ◆河原田真衣(福島四 1年)

日P基金からの還元金 八万三千六百六十七円

昨年度ご協力をいただきました日本PTA基金の還元金が、標記のとおりありました。

十年間にわたって、書き損じはがき、テレフォンカード、切手などを寄贈いただきましたことに感謝申し上げます。

なお、日P基金の募金は昨年度で終了しております。還元金は本会計に入れました。

省エネ啓蒙教材を 会津NPOセンターから 寄贈されました

去る一月二十九日、理事会の席上で、会津NPOセンター理事長谷ヶ城隆様より、県PTA連合会に、省エネ啓蒙ゲーム「築城遊戯」(CD-ROM)とその小冊子「くらしの知恵」の寄贈をいただきました。



これは、県内全ての単位PTA・学校にということです。

春の全国交通安全運動

- 期 間 平成十四年四月六日(土)から十五日(月)までの十日間
 - スローガン 「その違反 小さな瞳が見つめる」
 - 運動の重点
 - 1、子供と高齢者の交通事故防止
 - 2、飲酒運転等悪質・危険な運転の追放
- 例年の運動か、としてでなく、事故の絶無を改めて強く誓い合いたい。

平成十四年度県P研究大会

福島大会のご案内

- ◇大会主題 子どもたちの豊かな人間性、社会性を育むPTA活動
- ◇期 日 平成十四年九月二十八日(土)・二十九日(日)
- ◇会 場 福島県文化センター1他
- ◇分科会 1組織運営、2研修活動、3家庭教育(小)、4家庭教育(中)、5健全育成、6養護教育、と通常の提言形成による分科会、さらに、特別分科会「男女共生」をパネルディスカッション形式で行います。

福島市小中学校PTA連合会では、その準備を着々と進めています。詳しくは一次案内で紹介いたします。

すでに各学校には送付されていることと思いますが、子どもたちに省エネルギー意識の高揚と実践化をうながす好教材でありますので、有効な活用をお願いします。

平成十三年度中に発行したPTA広報紙

学校・学年・学級新聞をコンクールに応募ください。

- ・締切 三月末日
- ・送付先 〒960-8648 福島市柳町4-29 福島民友新聞社事業本部 「新聞コンクール係」
- ・この事業は、本会と福島民友新聞社の共催で実施しております。

編集後記

今年度は、本会にとって、まさに節目の年でした。創立五十周年：創立当時の苦難、そして今日までの発展の歴史を、記念誌の編集をとおしてかいまみることができ、改めて本会の必要性や存在感などを強く認識できた。これを機に、さらなる発展に向けともに歩みたい。新年度からはいよいよ完全学校週五日制、子どもの生活に対して、親としての責任をどう果たすかが問われる初年度となる。(K)

安全互助会から

平成14年4月から新しく「学校・PTA活動支援補償制度」を始めます。

このことにつきましては、各学校にパンフレット並びに加入申込書を送付してありますので、内容をご検討いただき学校やPTAの実情に応じた加入をよろしくお願いします。

新補償制度の特徴のひとつを取り上げますと、「PTA主催事業以外での活動支援者の万一の傷害・賠償事故を補償する。」ということです。

したがって、保護者などが行う授業等の支援活動中の事故や、支援活動のため自宅を出て帰宅をするまでの事故などにも補償されます。

なお、内容・加入等についての問い合わせは(下記TEL・FAX番号)にお願いします。

PTA安全互助会未加入のPTAにありましては、来年度はぜひ加入くださいますようご検討ください。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 **共栄火災海上保険相互会社**

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509